

秋涼の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員の皆様には、ご健勝にお過ごしのことと拝察する次第です。

当県に於いて新型コロナ新規感染者の報道は殆どありませんが、万全を期する県内各自衛隊の各種行事は軒並み中止され、今月も皆様にお知らせする記事はありません。

そこで今月は妙な黒い地図を同封しますが、この地図は今から丁度1年前の9月29日に東京港区の愛宕山頂にある「NHK 放送博物館」を訪れた際、偶然に見つけて私が撮影したものです。

皆様よくご存じの「2・26 事件」は、1936 年(昭和 11 年)2 月 26 日から 2 月 29 日にかけて、皇道派の影響を受けた陸軍青年将校が蹶起した所謂クーデター未遂事件ですが、戒厳司令部は近隣住民を避難させ、反乱部隊の襲撃に備えてこの愛宕山頂にあった当時の「日本放送協会東京中央放送局」を憲兵隊で固めました。

愛宕山は東京都港区愛宕にある丘陵で、一帯の愛宕神社境内にある三等三角点には 25.7m の標高が記録されており、天然の山としては東京 23 区内最高峰の最高地点とされていますが、これは誤りで「自然地形でなおかつ山と呼ばれるものの中では最高」と云う事らしいです。

余談乍ら東京 23 区西部は標高 30m を超える台地(武蔵野台地)であり、23 区内の最高地点は練馬区南西端の約 58m で、また人造の“山”の最高峰は新宿区にある箱根山(45m)でした。

話は「2・26 事件」に戻りますが昭和 11 年 2 月 26 日未明、かねてより昭和維新断行を企図していた野中四郎大尉等青年将校に率いられた、東京衛戍の歩兵第一及び第三連隊を主体とする千五百余の兵力が蹶起したこの日の東京は、晩冬にしては異例の大雪だったそうです。

因みに47年前に私が勤務した市ヶ谷32連隊の、当時上司だった荻洲3佐(情報・2科長)の幼少の頃の回顧談で「2. 26の早朝は大変な雪で、当番兵が官舎まで引いて来た馬に親父は騎乗し、雪の降りしきる中に所属部隊へ向かった」と、RCT 演習時天幕の中で伺った話が今も耳元に残ります。

さて決起部隊は積雪を蹴って重臣を襲撃し、総理大臣官邸や陸軍省、更に警視庁等を占拠し、斎藤内大臣、高橋大蔵大臣、渡邊教育総監は此の襲撃に遭って斃れ、鈴木侍従長は重傷を負い岡田総理大臣、牧野前内大臣は危うく難を免れました。

此の間、重臣警備の任に当たっていた警察官のうち5名が殉職したそうです。

その後蹶起部隊に対する処置は、4 日間に穏便説得工作から紆余曲折して強硬武力鎮圧に変転しましたが2月29日反乱軍が矛を収め、国軍相撃は避けられ事件は無血裡に終結しました。当時反乱軍はこの「日本放送協会東京中央放送局」も押さえ首都制圧を目論みましたが、結果

は既読の通りで、反乱軍本拠地の山王ホテルは現在山王パークタワーになっています。

また陸軍省参謀本部は現麴町消防署永田町出張所辺りで、また海軍省は現在の経産省別館付近かと推察するところです。

首相官邸は今から20年以上前に新築されましたが、当時の公邸は確かその前年当りに移築改修され、2・26 事件当時の弾痕生々しく今も現存しています。

戒厳司令部が置かれた当時の軍人会館は戦後九段会館と改称し、9年前の東北大震災で内部天井が崩落して死傷者が出たため、多分現在は解体されて新築中のはずです。

嘗て大本営があった現市ヶ谷駐屯地はこの地図では「陸軍士官学校」との表示しか無く、目前で生じた2・26事件では殆ど出番が無かったのでしょう。

近歩1. 2連隊跡石碑は北の丸公園にある日本武道館庭園の中にひっそりと佇み、84年前のクーデター時に昭和天皇が「股肱の臣を襲撃した以上は、朕自ら近衛連隊を従え反乱軍を平定する」と云われた渦中の部隊でもあり、あわや国軍同士の衝突を直前で避けられて当時の近衛兵達は安堵した事かと存じます。

皆様も現在のコロナ騒動が一段落したら、東京散策の折にでも歴史がぎっしり詰まったこの「NHK 放送博物館」見学を是非ともお勧めします。

今月も小川和久先生のタイムリーなメルマガを引用させていただきますので何卒ご一読下さい。

## ・ワクチンが左右する軍事の優劣

---

この夏以降、コロナ後の安全保障環境はどのように変わるのかと質問されることが多くなりましたが、私の答えは、それこそ取り付く島もないほど素っ気ないものです。

### 「変わりません」

皆さん、コロナのせいで在宅勤務やリモートで仕事することが増えたように、なにか人間が前面に出なくても戦えるような**新兵器**が、それも急速に**普及**するのではないかと思いついでいるようです。

むろん、AI やロボット技術を使った**無人兵器**はどんどん登場し、普及していくでしょう。

しかし、それはコロナが蔓延する前から始まっていたひとつの流れです。コロナと結びつけるにはいささか無理があります。

実を言えば、米国も中国もロシアも、そして自衛隊も、**各国の軍隊が抱えている悩みは同じ**です。人と人が接触しないではいられない狭い戦車、航空機、艦艇の中で、どのようにして**感染を防ぐ**かで**四苦八苦しながら訓練や演習**を行い、練度を落とさないように苦心しています。その点については、どの国も変わりはありません。

といっても、そこに現在は目に見えていない戦いの成果が加わると、様相は一変します。それはワクチンです。ワクチンを早く開発し、それによって**軍事組織の機能をコロナ以前に戻す**ことができた国ほど、安全保障の面で**優位に立つ**ことができます。その有利さを手にした国が外交、そして経済を含む様々な分野で国際競争を有利に進めることができることは言うまでもありません。

9月中旬段階で、ワクチン開発の**最終段階**である臨床第3相(P3)試験に入っているのは**8種類**で、一部のワクチンは**年末から来年はじめ**にかけて接種が始まる可能性があるとのことです。

ちなみに世界のワクチン開発は次のように展開されています。

P3 8種類 中国 3、米国 2、英国、ロシア、ドイツ  
P2 3種類 米国、中国 1、ドイツ  
P1~2 5種類 米国 2、フランス、英国、日本  
P1 7種類 豪州 2、英国 2、中国、米国、カナダ  
前臨床 6種類 日本 4、香港、フランス

このうち P3 と P2 は、どれが先頭に躍り出てもおかしくないほどの**競り合い**です。P1~2 から先頭グループに参入するものが出てくる可能性もあります。

P1~2 以上で言うと、米国 5、中国 4、英国 2、ドイツ 2、日本 1、ロシア 1、フランス 1 で、**米国と中国が圧倒的にリード**している印象です。

そして、実は、この**開発競争での勝敗が安全保障面での優劣を反映するものになる**という点

が、コロナ後を占うポイントとなるのです。

果たして日本政府にそのような視点が備わっているのでしょうか。 まったくありません。お寒いかがざりです。菅新政権のお手並み拝見と期待しても、無い物ねだりかな。 (小川和久)

先の見えない「ウィズコロナ」ですが、やはり「ワクチン開発」がキーワードになりそうです。

何れの国も鎬を削って一日も早い「ワクチン」の完成を目指しており、先を急ぐ余りに中国やロシアでは臨床試験もそこそこに患者への接種を始めるとも仄聞し、本当にお寒い限りです。

中国は自らまき散らした武漢ウィルス対策医療用のマスクや人工心肺装置などを、欧州や発展途上国への支援用品としてばらまいて恩を売っているようですが、これなど正に戦略物資であり爆弾やミサイル以上の費用対効果が望めるのかも知れず、これが他国に先駆けてワクチン開発を急ぐ理由に他ならぬでしょう。

いよいよ来月は米国大統領選挙が実施される中、その結果如何では日本の安全保障環境にも大きく関わって来ることが予想され、東アジア情勢は全く予断を許さず他国の選挙結果に一喜一憂すること無く、自らの国は自らの手で守る気概を持つためにも「憲法改正」は急務です。

そのためには下記の URL をクリックして頂き、憲法改正賛同者の 1000 万人ネットワークを広げようではありませんか！何卒ご署名にご協力ください！<https://kenpou1000.org/approve/>

何をするにも絶好のシーズン到来ですが、今暫く三密を避けて呉々もご自愛専一にお過ごし頂ければ幸甚に存じます。

令和2年10月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小 倉 和 彦